



まちかど記者の皆さんと紹介するよ



くぼっち



え〜け〜



なおちゃん



のんちゃん

学校に残る学びの歴史

市内の学校や市歴史民俗資料館に残された「学校に関わる古いものを探してみよう」と取材に出かけたきりはまちくんとまちかど記者の皆さん。東かがわ市の歴史を語ってくれるものが見つかったかな？



三本松小学校3年生 給食の様子 昭和33年

学校で響くチャイム

下の写真の半鐘、お寺で見かける鐘によく似ていますが、これは何ですか？

今の学校では、授業の始まりや終わりなどを知らせるために、チャイムが鳴っていますね。昔は現在のようなチャイムではなく、木の板(分厚いもの)や半鐘を木槌のようなものでたたいて知らせていました。その後、下の写真のようなかねに変わり、しだいに電気が普及してベルになり、現在のようなチャイムへと変わりました。

このかね、見たことがあろうな気がするんですが？昔は学校にいる用務員さんがこれを鳴らして時間を知らせてくれていました。現在では、プールでの休憩を知らせるため、一部の学校で使われているそうです。

学びの教科書

次は教科書です。探して

みると明治時代のものをたくさん見ることができ驚きました。

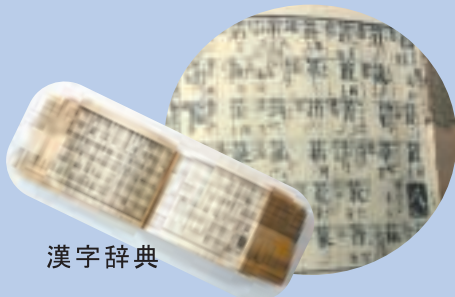
昔の教科書は、教科の呼び方が異なっていたり、学習の内容が今とは違っています。たとえば、算数は「算術」、国語は「読み方」、道徳は「修身」、音楽は「唱歌」と呼んでいました。理科の教科書(高等小学校1学年用・大正3年)には「田植」雑草の害などが。また鉛筆書帖(明治43年)には円錐や円柱の書き方のほか、桶やかまどの書き方もありました。大川郡特別教務研究会編の裁縫学習帳(年代不明)では裁縫の仕方がこと細かく記されています。

昔の小学生は、日常生活にすぐ生かせるようなものを習っていたんですね。

だから、昔の人は何でもよく知っているんですね。

また、和紙に印刷された漢字辞典がありました。部首ごとの画数ごとに整理されたものです。サイズは縦12・5cm×横20cm×厚さ12cmで

昔の教科書



漢字辞典



書き方手本

鉛筆書帖

裁縫学習帳



かね



半鐘